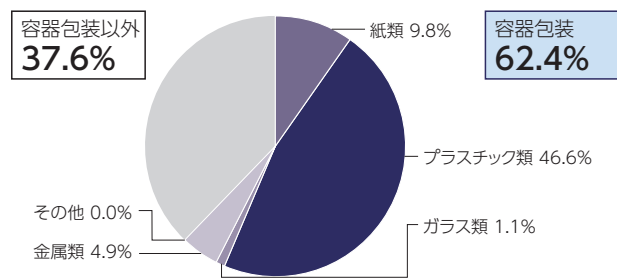


パッケージのさらなる社会課題解決に向けて

東洋インキグループは、パッケージ関連材料を通じて「持続可能な社会」の実現に取り組むとともに、パッケージの抱えるさまざまな環境問題の解決に取り組んでいます。

社会課題

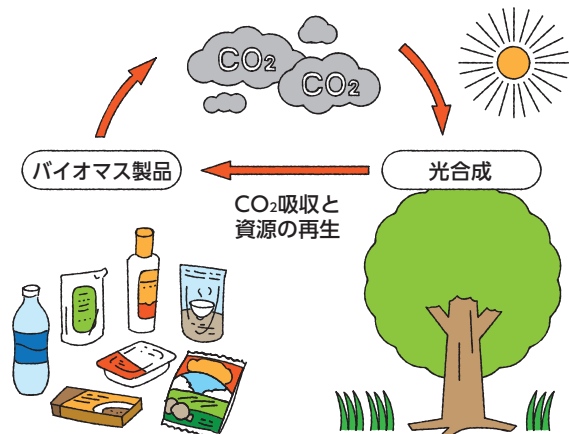
パッケージは、内容物が使用・消費された後には不要なものとなり、ごみとして廃棄されます。環境省が毎年実施している家庭ごみの調査では、容量比で62.4%（重量比22.7%）がパッケージ由来で、そのうちの75%をプラスチック類が占めています。プラスチックとの賢い付き合い方を進める「プラスチック・スマート」に向けた取り組みが、素材メーカーにも求められています。



環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査（平成30年度）」

バイオマスパッケージへの取り組み

バイオマスには、「カーボンニュートラル」という特徴があり、焼却せざるを得ないプラスチックへの利用拡大が求められています。東洋インキグループは、オフセット、グラビア、フレキシソの印刷インキに加え、包装関連資材であるラミネート接着剤、ホットメルト接着剤においてもバイオマス製品を開発し、パッケージの環境負荷低減に向けたソリューションの提案を行っています。



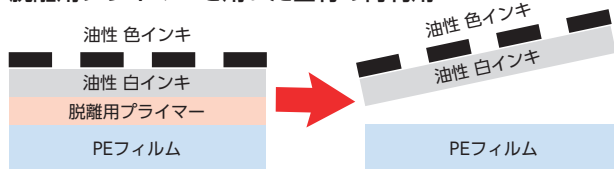
カーボンニュートラル：バイオマスは、再生可能な生物由来の有機資源のことです。燃焼するとCO₂が発生しますが、植物が成長する際にCO₂を吸収するため、全体で見るとCO₂の量は増加しないという特性があります。

省プラスチック・脱プラスチックに向けた取り組み

プラスチックのパッケージの多くは、複数の素材を貼り合わせて構成されていますが、欧州や米国では「単一素材化」の検討が始まっています。東洋インキグループでは、パッケージの表刷り時に脱離用プライマーを用い、リサイクル時に表刷りインキを脱離させることで、基材の再利用を提案しています。

また、再生可能な紙などのプラスチック代替素材への切り替えに対応して、食品包装の内面にコーティングして耐油性、耐水性を付与するコーティング剤「FILLHARMO[®]」(東洋アドレ(株))をはじめ、プラスチックフィルムの持つ強みを紙に付与し、紙の利点を生かしたパッケージの利用拡大に向けて、さまざまな製品群の拡大を図っています。

脱離用プライマーを用いた基材の再利用



「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」への参加

プラスチックごみによる海の汚染が世界的に問題になっており、SDGsでも海洋ごみの削減がターゲットの一つに掲げられています。パッケージなどのプラスチックごみが紫外線や波で劣化して細かく砕けた「マイクロプラスチック」が、生態系に影響を及ぼすと懸念されています。

2019年1月、経済産業省により、海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、官民連携でイノベーションを加速するための組織「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」が設立されました。東洋インキグループとして、東洋インキSCホールディングス(株)が参加し、最新技術動向の把握や情報共有、企業間連携などの活動を行っています。